



～今月は進学・就職に関わる試験の基礎知識を押さえよう～

大学進学を目指す三刀屋高校の3年生は1月の大学入学共通テストを経て、私立大学の試験（日程は大学によって異なる）や国公立大学前期試験（2/25）を終えました。このあとも各自の進路に向けて、私大や国公立の中期・後期試験に臨んでいきます。さて、今回は進学・就職に関わる試験についてお伝えします。受験に向けた準備に不安を感じている人も、ここで基礎知識を押えておきましょう。

受験（進学）の基礎知識

（進路の手引き p.6～p.22）



← 「近年の入試の基本情報」解読動画
（ベネッセコーポレーション教育情報センターより）

受験の必須知識について

選抜区分…主な選抜区分は以下の3つです。

- ① 一般選抜…主に学力を軸に選抜する。近年は学力以外の要素（主体性など）も可否判定に用いる大学も増加。
- ② 総合型選抜…課題活動の成果や小論文、面接などによる人物評価が中心。
- ③ 学校推薦型選抜…高校の学業成績などを基に、学校長の推薦を得て出願する。

スケジュール…上記の②→③→①の順番に入試がスタートします。②③を受験する場合は、志望理由書や活動報告書などを提出する必要があるため、計画的な準備をしなければなりません。また、これらの合格発表は①の実施時期と近いということも頭に入れておきましょう。

大学入学共通テスト…これは国公立大学だけでなく、多くの私立大学の入試にも利用されています。共通テストについては **三高進路 NEWS for 1・2 年生** 第7号 に特集したので読み返してみてくださいね。（本紙では省略）

総合型・学校推薦型選抜について

（ベネッセコーポレーションより）



“推薦”だけど学力も問われる

「面接だけの試験」というイメージを持っていた人は要注意！現在の総合型・学校推薦型選抜では、右表のような方法で必ず学力を確認している。日々の授業を真剣に受けて入試に備えるとともに、志望校がどんな方法で学力を評価するのか調べよう。

学力評価の方法例

- 大学入学共通テスト
- 個別試験
- 小論文
- プレゼンテーション
- 口頭試問
- 実技
- 資格・検定試験の成績 など



総合型・学校推薦型選抜を受けるなら、一般選抜の準備も同時に

総合型選抜は9月、学校推薦型選抜は11月から出願が始まり、どちらも年内に合否が決まる*。しかし、もしうまくいかなかった場合は、すぐに一般選抜に切り替えて出願しなければならない。現役合格にこだわるなら、一般選抜の準備も並行して進めておくのがオススメだ。

*共通テストの受験を要する場合は、合否の決定は1月以降になる。

総合型選抜は…

9月以降
出願、試験

11月以降
合格発表

学校推薦型選抜は…

11月以降
出願、試験

12月以降
合格発表



もしうまくいかなかったら一般選抜はすぐそこ！

校種別の特徴について

国公立大学

国公立の一般選抜は「**共通テスト+個別試験**」の1種類のみです。個別試験は、**前期・中期・後期**の3回分が設定されています。近年は個別試験に加えて、**面接や志望理由書などを課す**大学もあります。個別に要項を確認しましょう。

私立大学

私立大学の一般選抜は「**学部個別入試**」による**3科目程度の受験**が一般的です。科目の負担が少ないですが、その分、**倍率も上がる**ため要注意です。学部個別試験以外には、**共通テスト**を利用した入試もあるので、**私大進学志望者も共通テストを受験**します。また、**外部検定試験**を利用した入試などもあり、入試形態は大学によってさまざまなので、**総合型や学校推薦型も含めて個別に要項を確認**しましょう。



専門学校

専門学校の入試にも一般選抜の他に、総合型や学校推薦型があります。専門学校の試験の内容は分野によって異なりますので、志望する学校の入試情報を確認しておきましょう。特に、**総合型選抜（AO入試）**は意欲や適性を重視する入試であり、**エントリー開始は6月頃（出願開始は8月頃）**になります。その他の入試よりも早い時期の開始なので注意しましょう。

【注】専門学校は設置にあたり、**国や都道府県の認可を受けた「認可校」と、受けていない「無認可校」**があります。無認可校には資格上の優遇や授業時数、教員の資格等にも決まりがなく、突然の閉鎖となった場合などにも行政等の救済措置が期待できませんし、そもそも「専門学校」と名乗ることもできません。

短期大学

短期大学は一般的に2年制です。**公立の学校は全国に14校のみ**で、ほとんど私立となっています。多方面への進路を目指すことが可能であるという点で、専門学校と四年制大学のメリットを併せ持っていると言えます。一方で、1997年以降その数は減少しています。また、**公立の短期大学は四年制大学の併願先として考える人も多く、競争率も高くなる**傾向にあります。短大の入試にも一般選抜の他に、総合型や学校推薦型があり、**共通テスト利用入試**を導入しているところもあります。

【補足】総合型選抜や学校推薦型選抜には **専願（合格したら入学を確約するもの）と併願（同時に複数の学校を受験することを認めるもの）**があります。出願先の要項で確認しましょう。

就職試験の基礎知識

高校新卒予定者の就職（採用）試験は「**学校推薦制度**」です。**企業に応募する生徒は、専願（合格したら必ず就職すること）**が求められるため、企業調べをしっかりと行うことが大切です。多くの企業では、共に働く人材という観点で、**欠席日数については厳しい目**を向けられます。就職（採用）試験の内容は企業ごとに異なりますが、**面接・作文試験・一般教養試験（SPIを含む）・適性検査など**があります。面接試験や作文試験では、**一般的なマナーや挨拶はもちろん、社会で働くことについての意識や時事問題、応募する企業の職種・業種への理解など**も求められます。今年度どんな企業から高卒求人があったのか、また試験内容などを知りたい人は進路指導部に来ている求人票を見に来てくださいね。

就職までの流れや試験内容の詳細は **【進路の手引き p.31～p.33】**に記載しているので確認をしてください。

公務員試験による就職は、**公務員試験を受験して合格した場合に可能**となります。教養試験では、**国・数・英・理・社**に加えて「**数的推理**」「**判断推理**」など公務員試験特有の問題も出題されます。**出題範囲が広く、競争率も高い**ので、希望する人は早めに準備に取りかかりましょう。本校では公務員模試を受験することができます。関心がある人は、募集があった際にはぜひ受験してみてください。なお、一般企業との併願はできないので注意しておきましょう。**【進路の手引き p.34～p.57】** 就職・公務員を希望する人は、**働く際の心構えや法律・制度など**についても、**【進路の手引き p.58～p.60】**で確認しておくとういでしょう。



いよいよ1年の終わりが近づいてきました。3年生の元氣長りを応援しながら、それぞれが自身の未来に向かって、力をしっかりとつけていきましょう。

